

# 川崎市における認知症ネットワーク

## Network for patients with dementia and families in Kawasaki city

日本医科大学武蔵小杉病院内科／教授

北村 伸\*

### 1. はじめに

認知症の人が住み慣れたところでよく知っている人たちと安心して暮らすためには、認知症についての市民の理解も必要で、市民、行政、医療、介護との連携が重要になってくる。川崎市中原区に街ぐるみ認知症相談センター（センター）を2007年に開設し、都市部において、一般市民、行政、かかりつけ医、専門医療機関、介護施設、地域の老人会やボランティアグループなどとのネットワークを推進し、認知症の早期発見とかかりつけ医を中心とした認知症診療システム構築（図1）を行っている。この事業は2007年に文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択され、センターではすべての地域の人々のもの忘れや認知症についての相談を受け付けている。

### 2. センターの特徴

誰でも気軽に訪れることができる。予約することも出来るが、予約なしでも相談を受け付けており、その日のうちに解決の糸口を見つけている。相談は無料である。相談者に対してはきめの細かい対応をしている。

### 3. 認知症早期発見とかかりつけ医が主体となる認知症診療システム構築

相談の流れを図2に示した。もの忘れが心配でセンターを訪れた人には、まずこの事業について説明し同意を得ている。その後相談内容を聞き、タッチパネル式コンピュータシステムを用いたもの忘れチェックシステム<sup>1)</sup>で簡単な認知機能評価を行う。この検査は15点満点で、13点以上は正常と判断して6ヶ月後の再来を進めて、経過観察を行っている。12点以下の人については、もの忘れが始まっている疑いがあると判断し、臨床心理士により詳細に生活の様子を聞き取り、Mini-Mental State Examinationが行われる。そして、相談内容や検査結果の情報をセンターからかかりつけ医に提供をしている。情報提供を受けたかかりつけ医は自施設で診断を進めるか、必要な場合には専門医療機関を紹介をしている。専門医療機関にかかりつけ医が紹介したときは、診断や治療導入後に再びかかりつけ医に帰り、継続的な治療と介護のアドバイスの行われる。もの忘れの疑いのあった人やかかりつけ医に紹介のあった人についても6ヶ月後にセンターへの再来を促している。このシステムで地域における認知症早期発見とかかりつけ医を中心とした認知症診療構築を促進している。

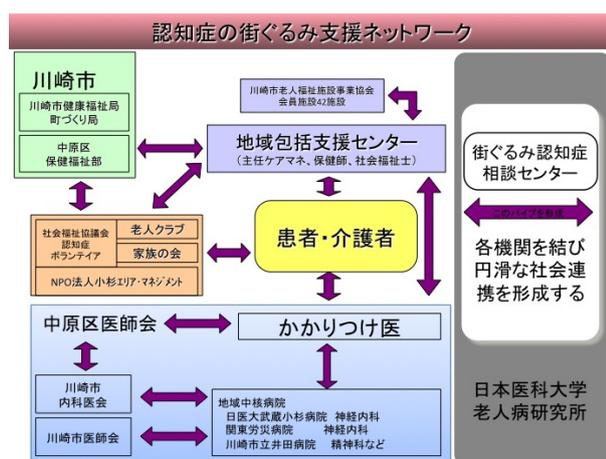


図1 認知症の街ぐるみ支援ネットワーク

\* Shin Kitamura MD: Professor, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital.

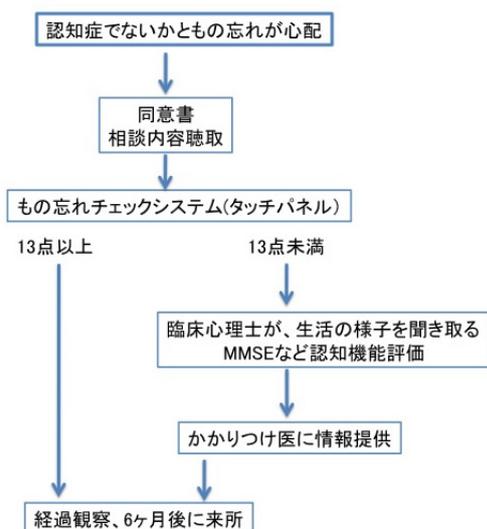


図2 ものを忘れを相談しに来た人の手順

表 街ぐるみ認知症相談センターの実績

のべ利用者数	2447
ID取得者数	1402
再来者数	1006
予約カウンセリング	36
かかりつけ医への紹介	667
かかりつけ医からの戻り	378
脳活性度測定件数	678
電話による問い合わせ	931

利用者住所	中原区内	654
	他川崎市内	467
	横浜市	155
	その他地域	126

開設から2011年6月29日まで

#### 4. ネットワーク促進のための事業

連携促進のために、さまざまな事業をセンターで実施している。市民が認知症の理解を深めるために、川崎市と共催で認知症フォーラムを現在までに6回開催している。地域包括支援センター、社会福祉協議会、老人会などとの連携を促進するためにセンターから会議に参加し、依頼があれば講演を行っている。介護と医療の連携促進のためにケアマネージャ、介護スタッフ、社会福祉士、医師などとのカンファレンスを開催し、講演と事例検討を実施している。

#### 5. センターの実績

2011年6月29日までの実績を表に示した。相談者数は2,447人であった。もの忘れが心配で訪れた人の約27% (667人) にももの忘れが始まっている疑いがあり、かかりつけ医に情報提供を行った。相談者は中原区在住が最も多く、川崎市の他の区、横浜市、他都県からも来ている。

センターは、医療施設ではなく、市民が気軽に訪れることができるという特徴がある。来所者のアンケートからも診療所やもの忘れ外来と比べて敷居が低く来やすいという結果を得ている。もの忘れについての相談者に、センターに来なかったらどうしていたかを聞いたアンケートでは、そのままにしていたという人が多かった。センターは、認知症の早期発見に貢献していると考えている。

#### 6. 都市部における認知症を支えるネットワーク

都市部では近隣とのつきあいも少なく、独居高齢者や夫婦2人で生活している人が多い。したがって、コミュニケーションの再構築が必要である。すなわち地域に住む人同士のつながりが出来るような活動をネットワークに取り入れて行くことが必要である。川崎市では、平成21年度より認知症対策まちづくり検討委員会を開き、高齢者や認知症の人が安心して外出し、いろいろなアクティビティーに参加し、円滑にコミュニケーションできるようなまちを作ることを進めている。このようなまちが作られれば、認知症の人を支えるネットワークも十分に働くことができると思う。

#### 7. 結論

述べてきたように街ぐるみ認知症相談センターは、有用な役割を果たしていると考えている。ここを起点とした川崎市における認知症ネットワークがこれからもさらに機能を発揮できるように努力をしたい。

#### 文献

- 1) 浦上克哉：タッチパネル式コンピュータを用いたアルツハイマー型認知症の簡易スクリーニング。治療 90: 1162-1165, 2008

この論文は、平成23年7月30日(土)第25回老年期認知症研究会で発表された内容です。